

## EvalString

---

### 機能

指定した文字列を Evaluate (式またはステートメントとして実行)します。

実行環境下では、計算対象の POTATo データが、hdata(ヘッダ)、data(データ)という変数名で与えられており、変更は hdata、data に反映されます。

その他の変数には影響を与えません。

---

### パラメータ設定

Enter : A (character): 操作者の任意の MATLAB コードを記入する実効する文字列を指定します。

---

### 実行例

体動検出の結果、全チャンネル中、3 チャンネル以上で体動が見つかった場合に、その全チャンネルに対し、体動があったかのようにフラグを設定し、データを使わないようにする方法を説明します。

前提条件として、このフィルタ実行前に、

- i) 体動チェックが実施されていること
- ii) ブロック化が行われていること

とします。

引数に以下のパラメータを設定します。

```
f=squeeze(sum(hdata.flag(1,:,:),3);hdata.flag(1,:,:)=0;hdata.flag(1, f>=3N,:)=1;
```

以下の通り、パラメータの説明をします。

POTATo 区間データのヘッダ内のフラグ、hdata.flag はフラグの種類 × ブロック × チャンネルの 3 次元データです。

```
f=squeeze(sum(hdata.flag(1,:,:),3));
```

最初に各ブロックの体動検出チャンネル数を求めています。

```
hdata.flag(1,:,:)=0;
```

上記により一旦フラグをゼロクリアし、下式にて 3 チャンネル以上で体動が見つかった全ブロックに体動ありを意味するフラグを設定しています。

```
hdata.flag(1,f>=3,:)=1;
```